

きり 桐

桐材は、古くからタンス等に使用されてきた木材です。会津地方ではキリの栽培が盛んで、市内でもいたるところにキリの木が植えられています。キリは5月頃に薄紫色の花を咲かせます。



桐の花

林業総合センター内では、腰板、床材の一部、ベンチ、研修室の出窓部分等に桐材を使用しています。

■ 桐材の特徴

軽い	桐材は、国産樹種のなかでもっとも比重（体積当たりの重さ）が軽い。
収縮率が小さい	木材は、一般的に空気中の水分を吸収・放出するとともに伸び縮みするが、乾燥した桐材はほとんど伸び縮みしない。このため、桐のタンスは引き出しに隙間がほとんどなく、内部が一定の湿度に保たれる。
熱伝導率が低い	熱が伝わりにくいため、寒い日でもあまり冷たくならない。下駄（げた）に使われているのは、この性質を活かしたものである。
虫がつきにくい	桐の成分の中には、昆虫を寄せ付けぬ成分が多量に見つかっている。衣装箱に使われているのは、この性質を活かしたものである。
腐りにくい	材に多量のタンニン（防腐力が大きい）が含まれているため、極めて腐りにくい。
音響性に優れる	桐材は音響性に優れていると言われている。琴等の楽器に用いられている。
燃えにくい	桐は発火点が高いうえ、燃えると表面に炭化層ができるため、熱を内部に通しにくい。

■ キリ

ゴマノハグサ科の落葉広葉樹。高さが8～15メートルになる。葉は大きなハート形をしている。国内の樹木の中では最も成長が早く、10～15年で製材ができるようになる。



キリの木

■ 桐材を活かした館内

林業総合センター館内では、様々な部分に桐材が利用されており、特に人が直接触れる床材やベンチなどでは桐材の温かみが感じられます。また、壁の腰板にも使われていることから、熱伝導率が低いことを活かした省エネルギー効果等が期待されます。



桐のベンチと漆塗の桐床